

聖家族 マタイ 2：13～15、19～23

エジプトでは聖家族の日、カイロ市内にある1つの木のもとに集まって祝うそうです。その木には「聖母マリアが疲れた時に休んだ」という言い伝えがあります。アラブの人たちは、初めて訪れて来た人たちを持ってなす“ホスピタリティの精神”にあふれています。その理由は、聖家族もエジプトに移り住んだ頃、エジプトの人たちのお世話になったろうから、自分たちも住み慣れない人たちに奉仕しよう、という決心からです。今日は、聖家族がエジプトに移り住むことになった理由と、その後の生活について考えます。

今日の朗読では途中が省かれた箇所があります。「占星術先生の学者にだまされたと知ったヘロデは、ベツレヘム周辺の2歳以下の男の子を一人残らず殺させました。」ヘロデは、とても有能な政治家でした。王として支配しながら、ローマ帝国とも上手い関係を結んでいました。政治、経済、軍事すべての権力を握っていました。だから「王が生まれた」と聞いて強いショックを受けました。彼は有能でしたが、自分を脅かす者には残酷でした。自分の奥さん、奥さんの兄、奥さんのお母さん、おじさん二人、自分の息子も3人殺しています。だから、「王が生まれた」と占星術の学者から聞いたときに、殺すことに迷いはありませんでした。「エジプトから逃げなさい」そんな危機を天使は夢でヨセフに告げます。ヨセフに迷いがあつたら、イエスはつかまって、殺されていたでしょう。間一髪で危機を逃れました。

エジプトに逃げた後の聖家族は、今で言えば、命からがら逃げてきた政治難民でした。着の身着のまま、何の当てもなくただ逃げてきただけでした。いつの時代でも、難民として生活することは大変でした。マリアは、慣れない土地で子育てに悩んだでしょう。ヨセフは、言葉も文化も違う中で、どうやって仕事を見つけたのでしょうか？今のように社会保障制度も、失業保険もありません。頼れる親族や友人もない中で、どれほど苦労したでしょう。辛く貧しい生活だったに違いありません。それでも、ヨセフとマリアはユダヤ教の祈りの生活を大事にしていました。辛くても、神と共にいました。

イエスは、両親の苦労を見て育ちました。親のことばと周りのことばが違うこと、自分の家が他と比べて貧しいことにも気づいたのでしょう。貧しい生活の辛さを肌で知っていました。だからこそ、宣教活動の間、貧しい人、弱い人に特別の愛情を示しました。物質的な貧しさに引け目を感じないで、むしろ貧しい人と共に生きることを学びました。ヨセフとマリアから受けた愛情に支えられてイエスは育ちました。このような家族を、今日私たちは聖家族としてお祝いしています。

では、現代の聖家族とはどのようなものなのでしょうか？聖家族は貧しい中にも信仰を生きた家族です。では今、同じような生活ができるのでしょうか？これは、かなり難しいように思います。教会と家庭、仕事を両立させるのは難しいご時世です。もし、皆さんの中で、うちはカトリックの家族ですがそれらしいことは何もできてないと思って、聖家族に「うちの家庭はこうなんですけど・・・」と話しかけたら何と返事が返ってくるのでしょうか？きつこう言われると思います。「私たちも同じですよ。確かに慣れない生活で苦労しました。あなたのご家族も信仰を生きにくい今の日本で頑張っていらっしゃるじゃないですか。うちのイエスの代わりに、お子さんを大切に思

ってらっしゃるじゃないですか！ よくやっていますよ。一言申し上げるとすれば、時々休むことが大切です。私も、木の下でよく休みました。いろいろな愚痴や不満を神様に聞いてもらって癒されました。」 信仰を生きる難しさを聖家族はよくご存じです。この1年、家族にいただいた恵みに感謝しましょう。そして、新しい一年も信仰を生きられるよう願って集会祭儀を続けましょう。